誰もが輝ける社会へ

江津市立桜江中学校　三年　　岡本慧

「四角い枠からはみ出さず、コンパスなどの道具も使わずに、できるだけきれいな円をかきなさい」と言われたらどんな円を描きますか。僕は直感的に図形の円を思い浮かべ、枠の中にできるだけきれいに描きました。僕はこれが正解だと思っていました。しかし実際は、図形の円だけではなく、枠の中に「漢字の円を書くこと」も正解でした。ほとんどの人が図形の円を描く中で、一人だけ漢字の「円」を書いた人がいました。このことを知り僕は、大きな円でも小さな円でもよい、漢字の円でもよいのだと思いました。

これは、あすてらす情報キャラバン「中学生が知っておきたい男女共同参画」のウォーミングアップでの出来事です。

あすてらすの福谷さんは、次に文章の並び替えクイズをされました。僕は、保育士さんを母親だと思い、トラックの運転手さんを父親だと考えました。だから、並べ替えがうまくいきませんでしたが、この時もこれが正解だと思っていました。しかし他の班には、父親が保育士さんで、母親がトラックの運転手さんという考えもありました。

この二つの活動で共通していることは、「どちらも直感的に物事を決めつけている」ということです。つまり、先入観にとらわれてしまっているのです。僕は正直、「自分は男女共同参画のことについて知っていることが多いだろう。」と心のどこかで思っていました。しかしその考えは全く違いました。自分の経験則で物事を決めつけてしまい、他の考え方に気づいていませんでした。

また、「男性は男らしいトラックの運転や建築などで働き、女性は女らしい保育士や家事をしている」という思い込みもありました。このような無意識の思い込みを「アンコンシャス・バイアス」と言うそうです。「アンコンシャス・バイアス」が性別役割分担につながったり、誰もが自由に働くことができる社会の妨げになったりしていると知りました。

福谷さんのお話の中で驚いたことは、「日本のジェンダー指数がアジアや世界と比べてもとても低いということ」です。グラフでは国会議員や市議会議員、県議会議員で男女の人数に大きな差がありました。国会や県議会などにおいて、女性の割合が少なく男性の割合が多いと、男性の考えややり方で物事が決まり、政治や経済が進められていきます。これにより女性の考えややり方、気持ちを理解せず、男性中心の社会になってしまいます。僕は、政治や経済の場で女性の割合を増やし、もっと女性の活躍を進めるべきだと考えます。

また、「アンコンシャス・バイアス」や「ジェンダーギャップ」により、女性だけでなく男性にも「生きにくさがある」と知りました。長時間労働や仕事の責任の重さに苦しみ、自ら命を絶ってしまう人は、女性よりも男性のほうが圧倒的に多いそうです。「男女共同参画」というと「女性の地位向上」に目が向けられがちです。しかし、「男は仕事、女は家庭」「男は強くあるべき」というような先入観に縛られて苦しむ男性の「生きにくさ」にも目を向け、社会を変えていく必要があると考えます。

学校生活の中で「男女の平等」について疑問に思うことはありませんでした。「男だから」「女だから」という理由で強制されることはほとんどありません。男子も女子も生徒会役員に立候補し、やる気をもって取り組んでいます。話し合いの場では対等に意見を述べ、議論しています。しかし社会に出ると大きなジェンダーギャップがあると知りました。

情報キャラバンのあと、江津市にも「男女共同参画推進計画」があると知りました。男女共同参画については、最近になって見直され、取り組まれていると思っていました。しかし江津市の「男女共同参画都市宣言」は、平成二十一年からあることが分かります。今から約十五年近くも前から、僕の町でも男女共同参画についての取り組みがされていたということを知り、驚きました。

その中で、「働く男性」という固定的な性別役割分担意識を無くすのと同じように、「女性は家庭」という意識の改革も必要であるということが印象に残りました。この意識改革がされれば、子供が生まれた後も女性が働きやすくなります。誰もが生き生きと働く社会に近づきます。

江津市の宣言にある項目の中で、その半分くらいは、まだ言葉の意味を理解することができません。しかし、これを理解しなければ、今僕たちが目指している社会を実現することはできないと考えます。随分前から、ジェンダーギャップの問題が江津市でもあったからこそ、宣言を出したり推進計画を立てたりしていると思います。だからこのことを他人事にせず、身近な問題から解決に取り組みたいです。誰もが輝ける社会の実現を目指して。